時事新報

第千二百九十九號

明治十九年六月十一日 金曜日
舊丙戌五月十日 (壬寅)
日出午前四時廿五分 日入午後七時十四分 月出午後一時十分 月入午前一時五十分 滿潮午前零時五分 滿潮午後零時四十分
(西暦一千八百八十六年)

時事新報定價

代金三錢○一箇月前金六十五錢○三箇月前金一圓八十錢○六箇月前金三圓四十錢○一箇年前金六圓五十錢○郵便稅一箇月金廿六錢○一箇年金三圓十二錢○左ニ揭グル各地ニ於テハ該地賣捌所ヨリ遞送無料ニテ配達致候(但本社ヨリ直接郵送スルモノハ此限ニアラズ)
●東京●橫濱、橫須賀●神奈川、藤澤、大磯、小田原、函根七湯、韮山、修善寺、三嶋、沼津、原、吉原、興津、淸水、靜岡、濱松、島田、藤枝●大阪、京都、大津、和歌山●神戶、岡山、笠岡、尾ノ道、福山、廣島、赤間關、下ノ關、長崎●名古屋、岐阜、岡崎、豊橋、四日市、桑名、津、松坂、山田●仙臺、福島、二本松、白石、石ノ卷、函館、靑森、弘前●高崎、小諸、岩村田、上田●宇都宮、鹿沼、八王子、千住、越ヶ谷、粕壁、杉戶、幸手、加須、騎西●千葉、佐倉、東金、八幡、船橋、市川
其他同地近傍配達便宜ノ個所ハ同レク遞送料不申受候

時事新報廣告料(前金)一行ニ付

一行廿四字詰	一日限	二日以上六日迄	七日以上十五日迄	十六日以上
自一行至十行	十錢	八錢	七錢	六錢八厘
自十一行至三十行	九錢	七錢	六錢	五錢九厘五毛
三十一行以上	八錢	六錢五厘	五錢八厘五毛	五錢五厘

時事新報

婦人の旅行

日本婦人の地位卑くして知見の甚だ狹隘なるは識者の毎度嘆息する所なれども其此に至りしは婦人先天の性質に於て然るに非ず社會の氣習教育の致せる所、男子獨り跋扈して婦人の精神肉体を壓抑し勉めて世事を知らしめざりしの罪居多なりと云はざるを得ず左れども今我國に於て文明諸國の風を追ひ婦人の地位を高めて其知見を開かんとするには男子自から此意を体して深切に婦人を待遇し夫れ其妻に對して細かに家政内外の事を語り何事に就きても一應相談して其意見を問ひ身分に應じて日々經歷する世事を談じ一家妻女をして世上の事を聞き慣れて之を考察せしむると肝要なれども今の婦人の有樣を見るに家事世事に就て男子の相談相手と爲る可き者甚だ少なきが如し男子が終日戸外に奔走して精神を勞し肉体を役し得々たるとあり快々たるとあり日暮家に歸て燈下に坐そ、共に其日の苦樂を話して胸襟を開くものは唯一の妻なるのみにして與に彈るなき親友たる可きに此妻や知見狹隘にして夫れ所思を知らざ例へど夫が世事民情の大勢を思案して竊に功名の志を抱き談緒少しく其邊に亘ることあるも妻の之を聞くは馬耳東風に異ならず夫の身に至大至重なる事業名譽の輕重と知らざ其社會に對するの關係如何と解せず況して遠國の風俗人情地理抔の如き殆んど天外の事として之に心を留ることなし要するに夫妻の心事の調子を殊にして遙かに相齟齬するものなれば婦人の地位の卑くして常に男子の下風に立ちます〳〵男尊女卑の勢を固くするも亦謂れなきに非ざるなり左れバ今我日本國の社會のためにも又その國人一家のためにも女生の智識見聞を開くの急なるは今更辨論するにも及ばず其方法に就ても識者の常に言ふ所にして學校讀書の教育抔も至極要用の事なれども我輩の見る所にて捷徑を求れば婦人の旅行も亦一手段として大に効力ある可きものと信ずるなり

西洋諸國にてハ汽車交通の便あるを以て男女共に旅行を厭はず春暄秋晴花草の美を追ふて去て殊邦の園林を訪ふより都市城池の盛んなるを觀、斷碑舊址と荒草の中に探り夏日暑を避けて幽邃清閑の山水に遊ぶ等生計に餘裕あるものは一年兩三回の出遊を試みざるものなき程なれど婦人の見聞頗る廣く遠邦れ風物習俗を語り目擊經歷の事物を談ずるに於て男子も或は遠く及ばざるものありと云ふ之に反して不幸なるは我日本の人民なり封建時代關門互に隔て旅行困難なりしの遺習にや男子にても旅行を面倒なりとし其足跡を一地方に限るの風にして婦女子の如きハ畢生家内に閉お籠り見聞を異邦遠國に馳するとと能はずして天地自から狹く談話の材料甚だ乏しきを免きず近頃或る宴會の席にて西洋婦人が日本の貴婦人に向て種々談話を試むるに兎角談緒の永續せざるに苦しみ貴婦人の生國は何れなるやと問ふに肥前なりと答へたれば長崎れ談こそ適當ならんと自身が東京に來るの途次同所に立寄りたる時の摸樣を述べ尙は貴婦人の所見を聞かんとせしに貴婦人ハ肥前に生れされども未だ長崎を見しとなしとの返答に二人の問の談話も止むを得ず中絕したりと云ふ西洋の諺に知見を開くの捷徑ハ旅行に在りと云ふとあり今日本婦人の地位の卑きを嘆じて其智見を開かんとするには讀書教育交際の外に四方に旅行するの風を養ふこと更に肝要なるべし今日交通の便利なる兩三月を費せば鳥渡外國に往復することさへ自在なり況して日本國中の觀光は其事甚だ容易なるが故に婦女子にして身に差支へなき者は自から進み人にも勸めて時々諸方に旅行する其間に見聞を富まし經歷を增し交際談話上男子の獨擅を許さゞるに至らんと我輩れ希望する所なり

雜報

○釜山通信 六月一日朝鮮釜山發
前報後當地は別段異事なし韓錢の相塲ハ十五割三分強にて米の拂口ハ又一層惡しき方なり之は本年當地近傍の麥作可なりの出來にて早き處は已に取入れたる程なれば旁以て不拂となりたる事ならん目今の相塲は白米上等五圓九十錢中五圓八十錢下五圓六十五錢位玄米は筑前五圓四十八錢、中國五圓四十七錢、肥前五圓四十八錢位なり目下當地に藏入して未だ賣拂けざる米凡そ四千石程之ある趣なれ然るに之に引替へ元山にては非常に拂口よろしく相塲も中白米にて六圓五十錢位ある由
當地を距る西南六七里計ある馬山浦、熊川、昌原等は目下コレラ病頗りに蔓延し頗る劇症なる趣きに就て當居留地より醫員を派し實地に就てその摸樣と探索せしめたる處下記報告書の通りなる有樣なり既に居留地にても商賈の爲め内地へ赴きし人足一人歸宅の上直に該病に罹り死亡しより又去る三十日當港に碇泊したる韓船乘込人一名該病に罹りたるものありたるに付直樣出帆を命せし處航行中に死去したるよし之に依て當地にては愈よ嚴重に檢疫を執行し居留地の入口〳〵に番所を設け尙ほも居留地に入る朝鮮人は檢疫の上消毒法を施すにあらざれば通行を許さず又牛皮、布海天艸等の如き臭氣を帶びて該病傳染の媒介となるべき品は一切居留地に入荷する事を許さず居留地外に於て一週間消毒を行ひたる上にて輸出の手續をなす事となり之が爲め商人は隨分困難の由なれども之も致方なし又汽船も乘客荷物共一應檢査をなされば入港を許さず唯當居留地の爲めに都合よろしきは乞食放逐の一件にて此度の機會に一人も殘らず逐出し今は一人も居留地内に影を留めざるに至れり
有栖川宮御乘組の扶桑艦は去月二十四日對州竹敷より入港し當地にて石炭を積込みたる上十日間計り碇泊の筈なりしが右コレラ病流行の爲め其夜直に馬關へ向け解纜したり
前文に記したる昌原及馬山浦地方等コレラ病實地視察として出張したる委員の報告書は左の如し
五月廿六日金海府市塲に於て熊川居民の眞性コレラ症に罹りたるもの一人と認む○同日午後八時昌原府下に至る患者最も多く其數判然せずと雖も同所に於て患者六名を診するに眞性コレラ症にして其中目前に死する者一名猶は診察を請ふ者ありたれども藥に乏しきを以て之きに應せず仝地を出發そ○仝廿七日午前十時新城村(昌原と馬山浦の間に在り)に赴き患者五名を診するに皆眞性にして其他にも仝性患者數名ありしと聞く○仝日午後一時軍主村(新城村に續く)に至る最も甚敷戶數凡七十戶にて死去するもの五十余名に及ぶと云ふ○仝午後二時馬山浦に着そコレラ發生の原因を問ふに凡そ二十日前仝浦の南部より起り漸く諸方に傳播して其病勢最も盛なるときは一日三十餘名の死亡者四五日間續き現今少しく病勢を減ず當今は一日十二三名位ある趣むき已に四時間滯在中二名の死亡を認めたり○仝日午後馬山浦を發し歸途に就く現今熊川地方病勢盛なりとの事なれども別に立寄らずして歸港そ○虎列剌病の外腸窒扶斯天然痘は經歷せし各所及熊川地方に流行す

○沖繩日誌 五月二十八日投郵
五月廿五日 燈臺局の官船明治丸入港そ本縣全島測量の爲なりと聞く尤も廿八九日頃迄には全く本島の測量を終り先島へ向け航行の筈なりと○沖繩縣師範學校附屬小學は今度首里の本部へ移されたるに付那覇役所長今西相一氏の盡力にて高等小學一校普通小學三校を那覇に設け本日開校式を執行したるが校費は一ヶ年四千四百七十餘圓なりと云ふ○五月廿六日 此の日午前十時頃日丸入港、三好陸軍中將當縣在屯兵一中隊を率ゐて來縣直に首里城の兵營に入營したり○來る廿九日は出雲丸入港の日取なるが同船にて新任及前任縣令とも來縣あるべしとて縣廳などにては專ら其用意中なり

○若松の近況 此程若松より出京せし人の話に該地は昔し藩政の時には海陸運輸の不便ありし爲め領内にて消費する品物は領内にて造り出し一切他國の供給を仰がざるの主意にて奬勵れ方法も行き屆きたれど唯に領內消費の品のみならず隨分他國にまでも賣出したるものも尠なからざりしが維新後は萬事其樣を一變し何産物も都て減退の姿に陷り既に漆器の如きも今は年々東京に送りたるもの其金額は四十萬圓餘ありしものが近年は其半額二十萬圓にも達せざる由又陶器は東京行の外抔々數拂け口もありしが毎年他國に出るもの凡そ四萬圓位なり人參は橫濱行と長崎行とを合せて從前五萬圓位の金高なりしが近年は三萬圓許なり蠟燭は年々二萬圓位宛賣り出す事あれども又他國より入り來る者も尠なからざれば出入殆と平均の割合なり米は十萬石位の輸出なるが其三分の一は新潟に出して東京に廻し三分の二は縣下安積定達岩瀨等諸郡の需用に供せり又同地へ他より輸入品の重なるものは石油、唐砂糖、鐵等なるが其金額は判然せずと云々

○世界無類の金剛石 千八百八十四年八月南亞弗利加より四百五十七カラトの白色金剛石を歐洲へ搬出する者ありて倫敦及巴里
し昨年來最有名なる
月迄全九ヶ月間にし
の純眞なると光澤及
國の帝王が貯ふる所
者なく其重は已に充
ト有餘ありて此品の出
剛石は荒磨の儘にて
純粹に磨き上ぐるに
べければ實に現今れ

○徵兵入員 東京鎭
より入營せしむべき
東京九十三人、神奈川
梨百二十二人○同第
埼玉百六十三人、群馬
聯隊(佐倉)へ千葉百
聯隊へ東京三十六人
栃木百八十九人○同
三聯隊へ看護卒東京
八人、茨城十四人、○栃
八人、埼玉十八人、靜岡
第十五聯隊へ看護卒
隊へ東京十八人、神奈
八人、山梨十一人、群馬
茨城二十六人、栃木
一人、埼玉一人、茨城
八人、千葉一人○工兵
埼玉十二人、靜岡二
千葉十二人、茨城十
人なりと云ふ

○南洋巡航日記 (
ヤドニー府はニユー
にてポルトジヤ
口二十五萬あり府の
瓦斯電氣燈を點じ列
鐵道あり(日本にて
ものあり)建物の宏
他大學校技術專門學
動物園等あり皆南半
此地に滯在三週間其
事等に面會しアルボ
コー新聞記者クック
際見聞志たると多き
西凡三十八英里岐阜
亘するあり之を靑山
りて東流するをホー
共に源を此靑山に發
して牧麥蔬菜菓樹の
西靑山に限り東太平
原九も六七十里に過
て敢爲剛毅なるア
かしむるに足らざ
の移民は始めて靑山
曠原あるを知れり此
ルが曠世の企業心を
獨り憾むらくは此平
靑山七十英里の險難
そ實に濠洲の開發を
然るに後二年始めて
地に入り千里の平野
し竟に濠洲富强の大
堅ハ實に濠洲發達の
を新設したるは第二
屈曲線の鐵道を設け